

木もれ陽

文責 平川 千秋

「学習支援」実施中

目には青葉 山ほととぎす 初鰹 山口素堂



江戸時代に作られた俳句です。春から初夏にかけて、江戸の町の人々が好んだものを詠んだ俳句として有名で、目に、耳にした人もあるかと思えます。桜をはじめ色とりどりの花が咲く季節から木々の若葉青葉が目眩しくなる季節へ、ホトトギスの「キョキョキョ」というちょっと甲高い鳴き声が耳に響く季節へ、そして当時は非常に高価だったといわれる初物の鰹が食べられる季節へ、変わりゆく四季の躍動感が感じられ、粹であることを好んだ江戸っ子気質の人々にぴったりと合った俳句として愛されたものと思われます。

それから300年ほど経った令和2年の今、見渡す限り青葉が鮮やかに広がり、鳥のさえずりが聞こえ、(校門の掲示板には「愛鳥週間(5/10~16)」のポスターが貼られていました。気づきましたか?) 鰹の水揚げのニュースが伝わる季節になりました。

普段の年なら校外学習や修学旅行の準備、部会大会に向けての練習、生徒総会の企画・運営等に熱の入る時期です。しかし、今年は授業をはじめ、諸行事も中止せざるを得ない特別なスタートとなり、躍動する季節感を五感で味わえないまま過ごす日々となってしまいました。ただ、この状況がずっと続くわけではありません。あと少し、もう少し、今の我慢を続けて多くの人が感染症予防対策を実行していけば、必ず“いつもの日常”が戻ってくるはず。 「当たり前前」の事を「当たり前」にできる。玉中生の底力を今こそ発揮してください。そして、苦しいことに立ち向かう勇気を出してください。2・3年生の皆さんの歌う『青葉の歌』を聴ける日を、今年度転入職員はじめ1年生、全職員が楽しみにしています。

12日から学級ごとに学習支援を実施しています。昇降口で健康状態のチェックを行い、2階の多目的室、図書室、理科室に分かれて休校中の課題を回収し、学習を行っています。基本は各自で課題を進め、やり方でわからないところがあれば質問するという形です。1年生の英語科は早速小テストを実施していました。今は新学習指導要領がめざす「対話的な学び」がやりにくい状況ですが、まずは一人一人が課題と向き合うこと、これが学びのスタートであるのは間違いありません。広い間隔を取った机の上に課題を広げて、真剣に黙々と取り組む皆さんの様子に感心しました。やっぱり、皆で一緒に勉強するのは最高ですね。

